

ひろしまの 土地改良



2016年 第244号



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2015 MAEDA ちきゅうとみらい賞
「たんぼでパーティー」池田将之助（三光学園神辺千鶴幼稚園）

●平成28年度農業農村整備事業の予算確保に向け広島県に要望活動

11月5日（金）、農業農村整備事業の計画的な事業執行に向け、広島県農業農村整備事業推進協議会の浜田会長ほか役員で、湯崎広島県知事に農業の持続的発展に基づく農業農村整備への支援について要望活動を行いました。

【要望事項】

1. 力強い農業に資する農地整備の推進
2. 農業水利施設並びに農業集落排水施設の長寿命化の推進
3. ため池の防災対策の推進

また、11月11日には広島県と一緒に農林水産省等に要望活動を行いました。



湯崎広島県知事に要望書を提出



農村振興局室本次長に要望書を提出する浜田会長

新年のごあいさつ



みどり
水土里ネットひろしま
広島県土地改良事業団体連合会
会長 羽田 皓

新年明けましておめでとうございます。

会員並びに関係者の皆様には、日頃より農業農村整備事業の円滑な推進、並びに本会の運営につきまして、格別なご理解とご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年10月には環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)の交渉が大筋合意に至ったことから、新たな農業情勢への対応を迫られることになりました。今後は、国が目指す「強くて豊かな農業」と「美しく活力ある農村づくり」の創出に向けた、体質の強化を図り、農業の競争力といった課題に取り組む必要があります。

農業・農村は、安全で安心な食料を安定的に供給し、豊かな自然環境や美しい景観等の農村環境資源や、伝統行事、食文化の継承など重要な役割を有しており、農村に暮らす人々の持続的な活動により成り立っております。農業・農村がこうした役割を存分に果たし、多面的機能が円滑に発揮されるものとなるよう、本会では農業生産基盤の整備と併せ、農村の生活環境向上の一助となる農業農村整備事業を積極的に推進して参ります。

農地や農業用施設は、地域にとって重要な資源であり、適正な維持管理のもと優れた生産基盤である田や畑などの農業資源を十分に有効活用する必要があります。このためにも、担い手の育成・確保、農地集積や農業の生産性向上、6次産業化による高付加価値化等への取り組みに向けて、農地や農業用施設の適切な保全管理と機能拡充に向けた対策、農村地域の環境保全活動と併せ、土地改良区の運営基盤の強化について、支援・協力して参る所存でございます。

本会が果たすべき新たな使命・役割と責任を担い、役職員一丸となって農業の持続的発展と農村の振興に取り組んで参ります。

本年も一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平成二十八年元旦	他職員一同	監事	監事	代表監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	常務理事	副会長	副会長	副会長	会長
		小池	吉田	小坂	田中	小村	高田	奥田	平谷	木山	増田	箕野	浜田	吉田	真野	下垣	牧野	藏田	羽田
		智慧登	基	真治	達美	和年	幸典	正和	祐宏	耕三	和俊	博司	一義	隆行	勝弘	雅史	雅光	義雄	皓

広島県土地改良事業
団体連合会
(水土里ネットひろしま)

新年のごあいさつ



広島県農林水産局長
 宝来伸夫

明けましておめでとうございます。

輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

皆様には、平素から本県の農業・農村の振興に多大な御貢献を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本県では平成22年12月に策定した「2020広島県農林水産業チャレンジプラン」に基づき、「産業として自立できる農林水産業の確立」を最も重要な目標と位置づけ、この目標をより着実に実現していくために、アクションプログラムを平成26年12月に策定し、現在具体的な取組を進めています。

こうした中で、国においてはTPP協定の大筋合意に伴い、米などの重要5品目に対する経営安定対策の充実とあわせ、生産性の向上やマーケティング力の強化など農林水産業の成長産業化に取り組む生産者がその力を最大限に発揮できるよう体質強化対策の充実が新たな政策として打ち出されました。

これは、本県農政の方向性と軌を一にするもので、今後、具体化される国の施策を活用しながら、さらにチャレンジプランの取組を進化させていく必要があります。「担い手の経営発展の段階に応じたスキルの習得支援」などの「担い手の経営力の向上」を図りつつ、「土地利用型野菜の大規模農業団地の形成」など「農業の収益性の向上」を図る観点から、農業生産基盤整備は引き続き重要な役割を担うものと考えております。

皆様におかれましても、農業農村整備事業の推進を通じて、本県の農業・農村の発展に一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のますますの御発展と御健勝、御多幸をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

平成28年1月



青年農業家インタビュー Young man farmer Interview

「青年農業家インタビュー」の3回めは、農業への転職を機に廿日市市平良地区でいちご栽培を中心に野菜作りに取り組まれている、山本貴志さんにお話しを伺いました。

青年農業家たちの昨日・今日・明日 ～農業の最大の喜びは「ものづくり」への探求心～

はつかいち苺ファーム 代表 山本貴志



艶も色味も華やかな紅ほっぺ



はつかいち
苺ファーム

いちごファームの概要

所在地	廿日市市上平良字河野原1799-1
構成員	3名(家族)
面積(a)	畑148a、いちご7a
作物内訳	ブロッコリー、ロマネスコ、レタス、キャベツ等10品種
おもないちごの品種	紅ほっぺ、おいCベリー

——いちご農家を開園するまでの経緯

廿日市市内で育ちサラリーマンを9年前までやっていましたが、ある時子どもの頃にあったいちごハウスが見られないことに気づきました。家から少し北側に位置する平良地区には、昭和30年頃からいちごづくりが盛んに行われていましたが、生産農家も高齢化するなど、消滅する可能性が見られたこともあり、この火を消してはいけないという思いが強くなり、勝手に農家に転身しました。決心後は、広島県などの関係機関に相談し、2年間いちご農家で研修を積む傍ら、土地探しなど開園に向けて準備を進め、2008年に開園しました。

——「はつかいちご」ブランド化に向けて

昔は、「平良いちご」という名称で栽培されていましたが、生産農家の減少により、収穫量(生産量)が減ったことから「平良いちご」を復活させるとともに、地域を盛り上げる意味も含め、商工会議所と市、地元大学、JAなど農商工連携により、「平良いちご復活プロジェクト」を立ち上げました。約2年間の協議の末、廿日市市内で栽培されるいちごを「はつかいちご」のネーミングとして統一しました。その後は、メディアなどに取り上げられるようになり、徐々に需要も伸びていき、「はつかいちご」の名称も定着したところです。新しい取り組みを始めた当初は、従来から栽培されている農家の方々から反発もありましたが、時間をかけ納得していただき、今では廿日市のいちごと言えば「はつかいちご」と広く知られるようになるのと同時に、地域の活力にもつながっています。



終始笑顔で語られる山本代表

—はつかいち莓ファームの経営について

いちごファームは家族3人(妻、母親)で経営しています。品種は「紅ほっぺ」と、3年前にできた新しい品種「おいCベリー」で、ビタミンCの含有量が普通のいちごより高いのが特徴です。いちごは直売とフレンチレストランや洋菓子店などに加工用に出荷し、それぞれプロの職人さんの料理やケーキに使われています。さらにケーキ屋さんで作ったシロップが酒造会社ではお酒になって販売されるなど、新たな繋がりができることもこの仕事の楽しさの一つです。

産業連関強化塾に参加し、加工業者と生産者をつなぐ取り組みを2年前から始め、ホテルのシェフやオーナーと地元の野菜を積極的に使ってもらう計画を進めています。いちご部会では情報交換も含めた勉強会を毎月開催し、大型農家が少ないこともあり、小規模農家同士で困っていることなど、共有しながら取り組んでいます。まだまだ経営と言うところまでにたどり着いていませんが、来年、再来年と規模拡大を図りながら進めていきたと考えています。

—農業を通して喜びを感じること

自分で植えて育てるオーナー制度を取り入れ、8株を9月に植えて5月の連休まで育ててもらっています。好きな人は週に1回~2回来て手入れされます。収穫時期には週に1回くらい通って収穫してもらっています。特に子どもたちには、ミツバチが飛んで来て、徐々に花から実になる様子を見せてあげたいという思いがあります。いちごはその場での評価が決まるということもあり、摘み取ったいちごを「おいしい」と言ってもらえることが、顔の見える農業を「やってよかった」と思える瞬間です。この仕事を始めていちご嫌いな子どもが意外に多かったことも驚きでしたが、普段食べない子どもがいちごをおいしそうに食べる光景は「ものづくり」の醍醐味だと感じています。



いちごの状態を確認



紅ほっぺが並ぶハウス

—今後の方向性について

経験不足により病害虫や生育不良などに苦慮した時期がありました。このため、他の農家さんに聞いたり研修に行くなどしていましたが、農家さんからはノウハウを教えてもらえるものの、上手くいきませんでした。しかし、先進的な取り組みをされている農家さんに研修に行くと、理論的に数値化し収穫量も多く、これまで失敗した内容もわかるなど、理論的に取り組む重要性を肌で感じたところです。今後は、自らも数値化を取り入れ後継者の育成はもとより、研修生の受け入れによる仕組みづくりや、新規就農者が負担にならない体制づくりを提案し、平良地区の活性化につながるよう地元還元していけたらと思っています。

—インタビューを終えて

新規就農され日々の積み重ねと手さぐりの中からの挑戦を経て、今は自分のやりたい農業(方向性)を見つけられたと、バイタリティー溢れる笑顔で語ってくださったのが印象的でした。地域と力を合わせ「ものづくり」の道を究めていかれる姿をこれからも見守らせていただきます。1年の中で一番いちごの需要が多いクリスマス前の、慌ただしいなかお伺いしたにもかかわらず、快く対応いただきありがとうございました。

● ドローンによる写真撮影支援



Phantom 3 Professional

広島県土地改良事業団体連合会では、ドローンを購入して、さまざまな写真撮影での活用を想定して準備を進めています。ドローンによる空撮を検討される節にはご相談ください。ただし、精度を要する測量やオルソ画像（空中写真から歪みのない画像を作成して、正しい位置情報を付与した画像）の作成は、対象としていません。



ほ場鳥瞰写真



ほ場確認写真



畑地造成地鳥瞰写真

想定撮影作業

- ほ場の作付状況の確認（現地確認、耕作放棄地の確認等）
 - 安全に近づくことが難しい箇所の状況調査（崩壊法面や河川内構造物の状況調査）
 - 地域、事業予定地・竣工地の鳥瞰写真撮影
 - 橋梁等の劣化状況の把握（ひび割れや錆の発生状況の確認等）
- 構造物に近接した写真撮影の場合には、橋梁調査等の専用ドローンを準備して対応します。

飛行制限等

- 高度：150m未満…地表又は水面から150m未満を原則とし、国土交通大臣の許可を受けた場合には、目視可能な範囲として200m程度の飛行も可能。
 - 電波到達距離：2 km未満…目視範囲内でドローンとその周囲を常時監視して飛行。
- 注）飛行に当たっては、上記の他に国土交通省の「無人航空機（ドローン・ラジコン機等）の飛行ルール」等に従って運用します。

問い合わせ

事業部：☎082(502)7478

総務部地域支援課：☎082(502)7476

● 平成27年度農業農村整備優良地区コンクール（農業生産基盤部門）において「農事組合法人シバザクラの里乃美」が農林振興局長賞候補地区に選ばれました

～ シバザクラ咲き誇る田園里づくり ～

東広島市乃美地区では、経営体育成基盤整備事業を契機に平成21年10月に農事組合法人シバザクラの里乃美を設立し、「シバザクラ咲きほこる田園里づくり」を目指し、外来雑草の除草・田んぼの生き物調査や水質調査に取り組み環境型保全農業を展開しています。シバザクラの里づくりを通して培った植栽技術は、県内外から年間約1,000名の方が視察研修に訪れるなど、技術研修や要請による現地での直接指導にも盛んに取り組んでいます。



学校等と連携した生き物調査



シバザクラの咲く田園風景



シバザクラの植栽技術講習

主要作物は主に水稻、飼料稲、大豆、枝豆を栽培し、エコファーマーの認証を受け化学肥料・農薬半減の特別栽培米「乃美シバザクラ米」や「乃美メダカ米」を生産・販売する傍ら、飼料イネの種採りに挑戦するなど新品種・新技術へ積極的に挑戦しています。法人設立により、高齢化・後継者不足による農地の荒廃を防止し、集落の維持管理が図られ、農地の集積による大規模経営と大型機械の効果で集落法人経営が安定化しています。



背丈に近い飼料イネ

事業の概要

- 事業名：経営体育成基盤整備事業（農業生産法人等育成型）
- 工期：平成21年度～平成27年度
- 総事業費：705百万円、受益面積：34.7ha、受益戸数：62戸
- 標準区画規模：事業実施前6a→完了後30a
- 主要工事：整地工34.7ha、道路工4.0km、用水路工5.2km、排水路工5.0km、暗渠排水工8.2ha

こちら 21 創造運動事務局

≡ 二 掲示版

平成27年度21世紀土地改良区創造運動大賞 部門賞を水土里ネット福山が受賞

水土里ネット福山が平成27年度21世紀土地改良区創造運動大賞において、部門賞(地域コミュニティー)を受賞しました。地元住民や地域団体と連携し、小学校や保育所の給食米を通した農業体験や、くわいの植え付け・収穫体験や出前授業などの取り組み、また取り組み後は水土里レポーターの報告により情報発信しています。農業用水や土地改良施設への理解、水土里ネットの役割を広く多くの人に知ってもらえるよう、地域と積極的に関わっている活動が認められました。



収穫した給食米と食材で、お世話になってい
る方々をもてなしました。
「給食米収穫の喜び! 収穫祭をしました!」より



稲の束ね方を教わっています。500㎡のほ場
の稲は全て手で刈りました。
「ぜんぶ手で刈ったよ!」より



堆積土をバキュームで吸い上げます
「「くわい」収穫前の水路浚渫」より

上記の詳しい内容は水土里ネット福山の水土里レポーター報告をご覧ください。

<http://www.hdn.or.jp/06souzou/midori2015.htm>

水土里ネット祇園町外二ヶ町が八木用水クリーン作戦を行いました

平成27年12月6日(日)水土里ネット祇園町外二ヶ町が八木用水クリーン作戦を行いました。土砂災害後初めての全線一斉清掃は、緑井地区から地域を挙げての参加、また原南地区からは170名(企業、中学校、大学、各町内会)の参加で、瞬く間にゴミが収集されました。参加された方から、ボランティア登録制度についての問い合わせや、来年も参加したいなどの感想があり、今後水土里ネット内で検討に向けた話し合いが進められる予定です。



看板ごとに清掃エリアの確認



清掃後はグループごとに移動



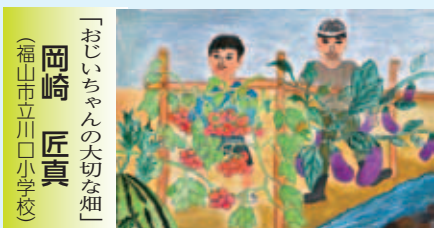
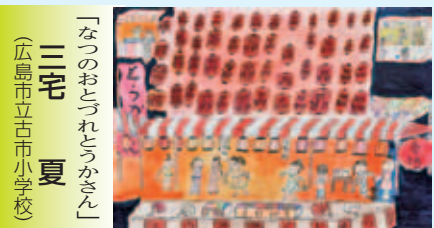
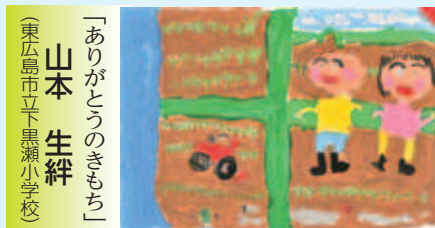
「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015 入賞・入選・団体賞の作品が決定

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015に全国から7,163点の作品が寄せられ、入賞23点、入選111点、団体賞42点が決定しました。広島県からは入賞1点、入選11点、団体賞2点が選ばれました。

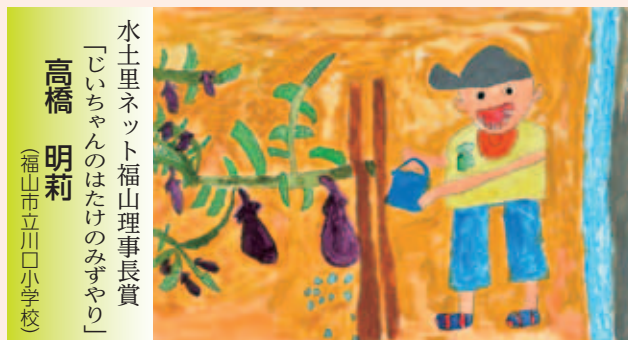
ふるさとの田んぼと水子ども絵画展2015 入賞・入選作品(広島県受賞分)

※入賞作品は表紙に掲載

入選



団体賞



住みやすく豊かな村づくり
みどり
水土里ネットひろしま

季刊 ひろしまの土地改良 第244号

■ 平成28年1月15日
編集：ひろしま農業農村整備広報委員会
発行：広島県土地改良事業団体連合会
〒730-0017 広島市中区鉄砲町4-1 広島県土地改良会館
■ TEL (082) 502-7470 ■ FAX (082) 502-7480
■ http://www.hdn.or.jp
■ 印刷：佐々木印刷株式会社